



[ビューティ花壇]

第14期年次報告書

2009.7.1～2010.6.30

証券コード：3041

花

h a n a k a z e

風



株主の皆様へ

TO OUR SHAREHOLDERS



代表取締役社長 三島美佐夫

企業理念

花をより身近なものとし、美しく豊かな世界を創造する。

経営理念

より高い付加価値の商品を、最適のタイミング、適正価格で提供するため

花に関する技術の練磨・知識の習得・情報の収集に努める。

そして、それらを積極的に社会にフィードバックすることにより

花の溢れる社会作りに貢献する。

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。第14期「年次報告書」をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

まず、昨年の第13期株主総会においての取締役選任、監査役選任の件で株主の皆様にご多大なご心配、ご迷惑をおかけいたしましたことに対し、深くお詫び申し上げます。総会後の取締役会にて前代表が辞任したことを受けまして、創業者である私が代表取締役社長に就任いたしました。就任後は、それまでの業績の不振を改善する為、経費削減や業務改善に取り組んでまいりました結果、第14期では業績を大きく回復することができました。

当社事業を取り巻く環境として葬儀業界は、1件あたりの葬儀単価が近年の社会状況の変化による葬儀の小型化により下落の傾向がみられます。

一方、生花業界は、生花卸売手数料の規制緩和により、卸売市場では卸売業者と仲卸業者の競合や市場の淘汰が見受けられます。また、供給面では、生産資材の値上げや生産者の高齢化に伴う規模縮小等により切り花類の作付け面積が減少しました。

このような状況下、当連結会計年度は、新規顧客の積極的な開拓と既存顧客内での当社への発注シェアアップによる売上拡大、徹底的な経費削減等により、増収・増益となりました。売上高は



前年比8.0%増の40億21百万円、経常利益は前年比219.7%増の2億9百万円を計上しました。

今後の展開につきましては、全社方針として積極的な新規顧客の獲得、既存顧客の掘り起こしによる売上高、粗利益の拡大を図るとともに、徹底的な経費の削減、作業工程の見直し等による販売管理費削減により、収益の改善・向上を継続していきます。生花祭壇事業につきましては、関東地区での売上拡大のために加工物流センターの立ち上げを行うことで、生産性と品質の向上を図るとともに積極的な顧客開拓を行う予定です。また、生花卸売事業につきましては、積極的な営業展開と生花調達力のアップを図り、更なる売上拡大と収益改善を目指していきます。なお、ブライダル事業につきましては、九州地区と関東地区での新規顧客の獲得に取り組んでいく予定です。

当社は、利益分配について、できる限り安定した配当の継続的な実行による株主の皆様に対する利益還元と内部留保の確保による将来の事業展開や経営環境の急激な変化への対応ができる経営基盤の強化を基本方針としております。その趣旨に基づき株主の皆様に対する利益還元として、原則、連結当期純利益の30%相当額を配当性向として日頃のご支援にお応えしたいと考えています。

株主の皆様におかれましては、今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。



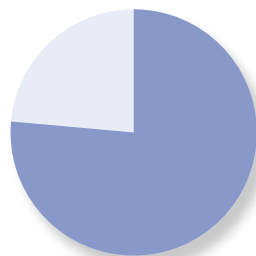
事業概況

BUSINESS REVIEW

連結売上高 4,021百万円

売上高・売上比率

生花祭壇事業



76.0%
3,059百万円



生花卸売事業



19.0%
762百万円



その他事業



5.0%
200百万円



事業の概要

主に葬儀関連会社に対し、葬儀における主要商品である生花祭壇や供花等の企画提案・制作から設営までを含めて提供しています。「感動していただける花飾り」を念頭に“安心と信頼”をモットーとし、技術に心をこめて商品のご提案をしております。

■ 生花祭壇設営

30年以上の伝統の中で培った技術力を駆使して、生前故人の好まれた生花を使用した花飾り、故人の人格を偲ばせるデザインなど、喪家様のご要望に応じた花飾りの提案に努めています。また当社流通統括課の豊富な仕入ネットワークを活かし、高品質かつ適正な価格で生花祭壇を提案できるシステムを確立しています。

■ イベント装花

生花祭壇の企画提案・制作から培われた高い技術力と、企画力を活かし、イベント会場の装花、制作を手掛けています。

■ 社葬・大型葬などの生花祭壇企画制作・設営

社葬・大型葬のご要望に応じて、生花祭壇企画・デザインのお打ち合わせ、生花の調達、作成、設置、撤収まで行うプランや、技術者が現地にて指導するプランなどを設けております。また、デザインイメージを独自のコンピュータグラフィックにて作成し、全体の雰囲気をご理解いただけるサービスもご用意しております。インターネットサイト「生花祭壇.com」で当社が手掛けた祭壇をご覧いただけます。

国内外の生産者・卸売市場・仲卸業者などのあらゆるサプライサイドから、顧客ニーズに合った商品をタイムリーに仕入れ、主に生花店や葬儀関連会社へ生花の販売をおこなっています。日々変化する、マーケットニーズに対応すべく、お客様により質の高い情報と商品をいち早くお届けする最適なシステムを追求するとともに、さらなる安定供給を目指しています。

■ 生花卸売事業の基盤となる

ビューティロジスティックシステム

従来の生花の流通は、エンドユーザーに届くまで、中間業者、卸売市場、仲卸・小売業者という多くの段階を経ていました。この流通システムをエンドユーザーの視点から見直し、仕入れ先にこだわらずサプライヤー（売り手）とユーザー（買い手）を直結する「ビューティロジスティックシステム」を構築しました。

■ 仕入れ支援サービス

— 品質・価格・時間のベストマッチングをプロデュース

■ 市場出荷前取引

— 市場に出荷する前の商品情報を入手し、お客様に配信

■ 法人向けサービス

— ビジネスツールとしての生花・胡蝶蘭の販売

生花事業の豊富な経験を活かして、ブライダル装花、ブーケの展開をおこなっております。

■ ブライダル装花

食卓の1輪の花から企業様向けのギフトフラワーまでフレッシュな花と緑をご提供している生花小売業と、ブライダルにおけるブーケや

会場装飾、イベントでの生花ディスプレイなどを展開しています。



10年

T E N Y E A R S V I S I O N

ビジョン

当社は、今後10年間に予想される社会環境及び顧客、競合の変化を踏まえ、グループの10年後のあるべき姿を「10年ビジョン」として定めるとともに、このビジョンを実現する為の経営計画を策定しました。

① 10年ビジョンについて

(1) 計画期間 (2011年6月期～2020年6月期)

3段階の経営計画を通じて10年ビジョンを実現

第1期 (2011年6月期～2014年6月期)
成長のための基盤整備

第2期 (2015年6月期～2017年6月期)
本格的な成長

第3期 (2018年6月期～2020年6月期)
ビジョン実現の最終段階

(2) 計画概要

既存祭壇事業の抜本的な
ビジネスプロセスの見直しによる効率化

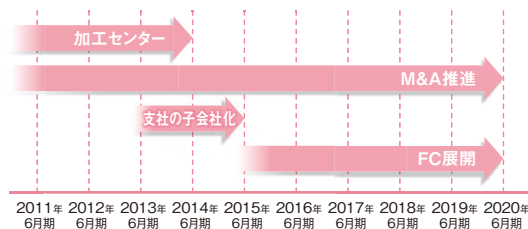
加工物流を本格稼働

積極的なM&Aの推進

支社の子会社化

フランチャイズシステムを展開

(3) 実行スケジュール



② 第1期について

(1) 基本方針

● 理念と行動規範の浸透

従業員にビューティ花壇で働く喜びを自覚してもらい、グループ全体での求心力を高めるため、理念と行動規範の浸透を図ります。

● グループ全体のマネジメント体制の見直し

グループの全体最適実現のため、それにふさわしいマネジメント体制を整備します。

● 今後の成長に必要な経営資源の確保

成長に必要なヒト(人材の確保と教育)、モノ(ハード、ソフトの確保と整備)、カネ(資金)を確保します。

● コアコンピタンスに基く戦略の展開

グループのコアコンピタンスでもある、技術力、企画力、調達力を活かした戦略を策定、実行します。

(2) 具体的施策

● 祭壇供花加工センターの稼動(関東地区)

商品の作成を一拠点に集約することで、ムダ、ムラを排除します。

● 資本業務提携(M&A)の推進

シナジーが期待できる業務提携を推進します。

● 支社の子会社化の推進

最適なビジネスユニット規模でプロフィット管理を推進します。

● 海外事業展開の推進

中国・上海での事業展開を本格的に検討します。



美
麗

花
壇

B E A U T Y T O P I C S

台湾に支社を出した
美麗花壇をトピックスとして
お知らせします。



第14期、美麗花壇は台北に加え新たに新竹、台中、高雄と3つの支社を出店しました。現在、台湾市場では「日本式祭壇」がブームとなり、その認知度は急速に進みつつあります。さらには「日本式祭壇」は、文化として受け入れられ台湾に根付きつつあると考えております。

今年の4月には、台中市で行われた著名人のご葬儀にて美麗花壇が幅19間(34.2m)×高さ5.7mの大型祭壇を作成し、日本からも数名のスタッフが支援に向かって設営を行いました。

これらの台湾での実績をもとに、培ったノウハウを生かし、将来的には中国本土への進出を考えております。そのためには、十分な市場調査、現地事業者との交渉などが必要となり、その採算性を十分検討してから、事業の開始を判断したいと考えております。

連結財務諸表

CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENTS

連結貸借対照表(要旨)

単位:百万円

	当 期 (2010年6月30日現在)	前 期 (2009年6月30日現在)
資産の部		
流動資産	942	711
固定資産	561	604
資産合計	1,504	1,315
負債の部		
流動負債	708	642
固定負債	308	189
負債合計	1,016	832
純資産の部		
株主資本	451	463
資本金	211	209
資本剰余金	131	129
利益剰余金	212	125
自己株式	△ 104	—
評価・換算差額等	△ 6	△ 7
為替換算調整勘定	△ 6	△ 7
少数株主持分	42	26
純資産合計	487	483
負債純資産合計	1,504	1,315

※単位未満は切り捨てて表示しております。

ポイント解説(連結貸借対照表)

当連結会計年度末における総資産は、主に現金及び預金の増加230百万円と有価証券の減少60百万円により188百万円増加し1,504百万円となりました。

負債合計は、主に未払法人税等の増加50百万円と長期借入金金の増加150百万円により184百万円増加し1,016百万円となりました。

純資産合計は、主に資本金及び資本剰余金の増加5百万円、利益剰余金の増加86百万円、自己株式の取得による減少104百万円、少数株主持分の増加15百万円により3百万円増加し487百万円となりました。

連結損益計算書(要旨)

単位:百万円

	当 期 (自 2009年7月 1日 至 2010年6月30日)	前 期 (自 2008年7月 1日 至 2009年6月30日)
売上高	4,021	3,724
売上原価	3,082	2,880
売上総利益	938	844
販売費及び一般管理費	735	782
営業利益	203	61
営業外収益	21	19
営業外費用	14	15
経常利益	209	65
特別利益	0	4
特別損失	27	45
税金等調整前当期純利益	181	24
法人税、住民税及び事業税	73	34
法人税等調整額	△ 1	5
少数株主利益	14	0
当期純利益又は当期純損失(△)	95	△ 15

※単位未満は切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

単位:百万円

	当 期 (自 2009年7月 1日 至 2010年6月30日)	前 期 (自 2008年7月 1日 至 2009年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	214	15
投資活動によるキャッシュ・フロー	41	△ 134
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 27	77
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	△ 5
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	230	△ 46
現金及び現金同等物の期首残高	228	275
現金及び現金同等物の期末残高	458	228

※単位未満は切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書 当期(自 2009年7月1日 至 2010年6月30日)

単位:百万円

	株主資本					評価・換算差額等		少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己 株式	株主資本 合計	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
2009年6月30日残高	209	129	125	—	463	△7	△7	26	483
連結会計年度中の変動額									
新株の発行	2	2			5				5
剰余金の配当			△8		△8				△8
当期純利益			95		95				95
自己株式の取得				△104	△104				△104
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)						0	0	15	16
連結会計年度中の変動額合計	2	2	86	△104	△12	0	0	15	3
2010年6月30日残高	211	131	212	△104	451	△6	△6	42	487

※単位未満は切り捨てて表示しております。

ポイント解説(連結損益計算書)

当連結会計年度の業績は、新規顧客の積極的な開拓と既存顧客内での当社への発注シェアアップによる売上拡大、徹底的な経費削減を推進しました結果、売上高4,021百万円(前年同期比8.0%増)、営業利益203百万円(前年同期比227.9%増)、経常利益209百万円(前年同期比219.7%増)となりました。

しかしながら、前期損益修正損15百万円、リース解約損7百万円等の特別損失27百万円を計上した結果、当期純利益は95百万円(前年同期は15百万円の損失)となりました。

ポイント解説(連結キャッシュ・フロー計算書)

当連結会計年度における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度に比べ230百万円増加し、458百万円となりました。

営業活動の結果得られた資金は214百万円(前年同期は15百万円の獲得)となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益181百万円、減価償却費56百万円を計上した一方で、法人税等の支払額23百万円によるものです。

投資活動の結果得られた資金は41百万円(前年同期は134百万円の使用)となりました。これは主に、有価証券の償還による収入60百万円によるものです。

財務活動の結果使用した資金は27百万円(前年同期は77百万円の獲得)となりました。これは主に、長期借入金の純増201百万円がある一方で、社債の償還による支出110百万円、自己株式の取得による支出104百万円等によるものです。

2010年6月期の配当について

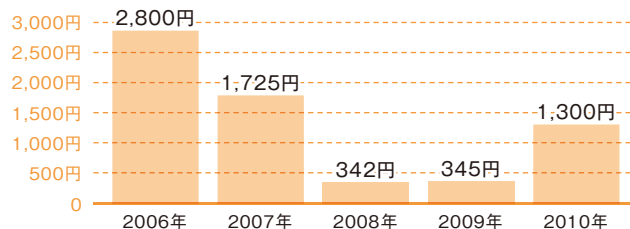
2010年6月期の期末配当については、内部留保の充実、株主資本利益率ならびに今後の事業展開等を総合的に勘案し、次のような剰余金処分が2010年9月24日開催の定時株主総会で承認されました。

普通株式1株につき …… 金1,300円
配当総額 …………… 28,740,400円

なお、剰余金の配当が効力を生じる日は2010年9月27日であります。

配当金推移

※2006年6月期は記念配当です。



会社概要

(2010年6月30日現在)

COMPANY PROFILE

会社概要

会 社 名	株式会社ビューティ花壇
本 社 所 在 地	〒105-0003 東京都港区西新橋2-16-2 全国たばこセンタービル8F
T E L	03-5776-5850
F A X	03-5776-5851
事 業 内 容	生花祭壇の企画提案・制作・設営 及び生花の卸・物流
創 業	1974年5月1日
設 立	1997年1月16日
資 本 金	2億1,188万円
従 業 員 数	210名(単体) 266名(連結)
連 結 子 会 社	株式会社クラウンガーデネックス 美麗花壇股份有限公司(台湾)

役員

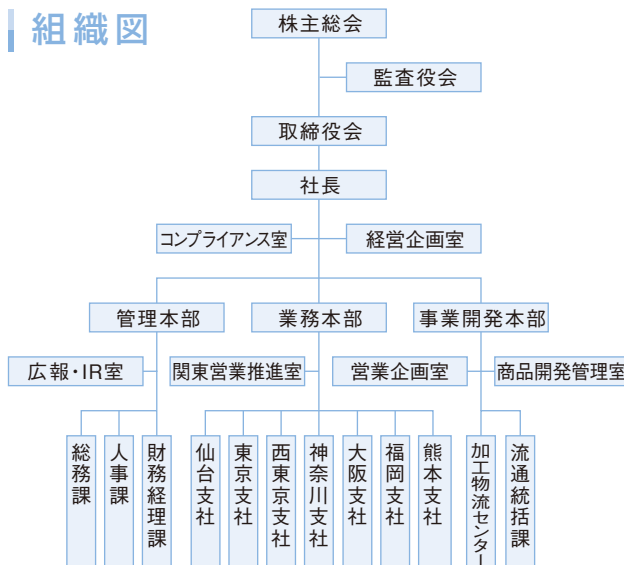
(2010年9月24日現在)

代表取締役社長	三 島 美佐夫
取 締 役	舩 田 正 一
取 締 役	渡 邊 一 功
取 締 役	須 浪 薫
社 外 取 締 役	柳 本 信 一 郎
常 勤 監 査 役	大 山 亨
常 勤 監 査 役	亀 井 浩 太 郎
監 査 役	西 川 泰 史
執 行 役 員	西 村 勝 美
執 行 役 員	岩 下 貴 宏

営業拠点地図



組織図



株式の状況 (2010年6月30日現在)

STOCK INFORMATION



株式の状況

発行可能株式総数	88,000株
発行済株式の総数	25,108株
株主数	1,887名

大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
三島 美佐夫	9,500	42.97
ビューティ花壇従業員持株会	993	4.49
三島 志子	600	2.71
清水 康	500	2.26
中村 雅幸	494	2.23
馬場崎 修	483	2.18
佐藤 吉和	360	1.62
株式会社河野メリクロン	344	1.55
河野 通郎	231	1.04
岩田 博美	191	0.86

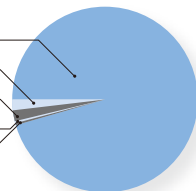
(※1) 当社は自己株式3,000株を保有しておりますが、上記の株主から除いております。

(※2) 持株比率は、自己株式を控除して算出しております。

株式分布状況

所有者別分布状況

個人・その他	95.79%	24,050株
金融商品取引業者	1.92%	482株
その他の法人	1.76%	441株
外国法人等	0.37%	94株
金融機関	0.16%	41株



株主数推移



株主メモ

事業年度	毎年7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	毎年9月開催
基準日	定時株主総会 毎年6月30日 期末配当金 毎年6月30日 中間配当金 毎年12月31日 ※そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都中央区八重洲二丁目3番1号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	0120-176-417

○インターネットホームページURL

<http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

●株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社の口座を開設されていない株主様は、下記の【特別口座について】をご確認ください。

●特別口座について

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、三菱UFJ信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。上記株主名簿管理人とはご照会先および住所変更等のお届出先が異なりますのでご注意ください。

●特別口座に関するご照会先

特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	0120-232-711

公告の方法

下記当社ホームページに掲載して行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

○公告掲載URL
<http://www.beauty-kadan.com/ir/library.html>

金融商品取引所 東京証券取引所マザーズ市場

証券コード 3041



w w w . b e a u t y - k a d a n . c o m

ビューティ花壇のIRサイトが、大和IRが選定する「2009年インターネットIR・ベスト企業賞」に、全上場企業の中からベスト16社として選出されました。

BEAUTY KADAN

株式会社ビューティ花壇
〒105-0003 東京都港区西新橋2-16-2 全国たばこセンタービル8F
TEL.03-5776-5850 FAX.03-5776-5851
<http://www.beauty-kadan.com>



この冊子は環境保全のため大豆インキとFSC認証紙を使用しています。

年次報告書「花風」のネーミングについて

社業の根幹をなす「花」と、メッセージという意味の「風」とともに、生花業界に新風を巻き起こすというチャレンジ精神を表現しています。